

学習の流れの例

- ① 日頃から取り組める共助について考える。
- ② 災害発生時に共助を上手く活用するにはどうすれば良いか考える。
例) 普段から地域の方とコミュニケーションをとっておく、積極的に地域防災訓練に参加する 等
- ③ p.38-41 を読んだり記入したりすることで、災害時に役立つ知識を身につける。

学習後の生徒の姿

災害時に中学生が活躍できることを自覚し、自助、共助の大切さについて学んだことを生かし、今後起こり得る災害に備えて試行錯誤しながら共助の輪を広げようとしている。

指導のポイント

東日本大震災や熊本地震、西日本豪雨、北海道地震などの大規模な災害時、けがをしたり、孤立したりして消防に助けを求めても、「断られる」ケースが相次いでいる。

参照：NHK「大災害時代 あなたに助けが来ないかもしれない…」

震災の被災者の多くは、地域の助け合い(共助)の重要性を痛感したと語っている。倒壊家屋からの被災者の救出、バケツリレーによる初期消火など、隣近所の助け合いによる減災活動が、被害軽減に大きな力を発揮する。

参照：内閣府防災情報のページ「公助の限界」と自助・共助による「ソフトパワー」の重要性』

●はまっ子防災ガイドの活用例

横浜市立藤の木中学校では総合的な学習の時間で防災をテーマに授業を行いました。

[担当の高橋泰佑教諭のご意見]

防災ガイドの内容はわかりやすく、学習を進めやすい。課題設定時に、生徒が当該ガイドを用いることで、課題を見つけやすくなっていることを感じた。ガイドの内容に興味を引き出し、きっかけをつかむと、その後自ら足りない情報を収集し、現状や原因などについて調べる思考や姿勢が見受けられた。

当校は、テーマを先に決め1年生:自助、2年生:共助、3年生:公助として取り組んだため、ガイドにある地震・風水害・避難所など各項目からそのテーマがどのように関連しているのか課題を見つける必要があり、生徒の主体的な判断力が養われる探求学習ができたことと認識している。

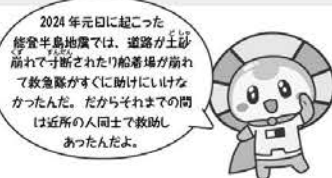
今からできる防災への取組

大地震発生時には、消防車・救急車がすぐに現場に駆けつけられるとは限りません。そんなときには隣近所の助け合いが大きな力となります。

めあて 災害時に地域の担い手であることを自覚し、日頃から取り組む。

◆地域が助け合いの基盤

日頃から近所の人たちとあいさつをして交流を持ちましょう。救助隊の到着が間に合わないとき、共助の力が発揮されます。



【ご近所さん】防災マンが共助編 ～共助の大切さ～



防災学習で話し合い、自ら考えよう!

「防災」は探究的な学習に向いています。防災の目的は「被害を最小限に抑えること」です。一人ひとりが正しい知識を持ち、日頃から備えれば、災害が発生した際に適切な方法で身を守ることができます。防災を通して、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」と繰り返し、積極的に話し合いながら学び、自分なりの答えを出しましょう。

〈藤の木中学校の活用事例〉

南区の藤の木中学校では、総合的な学習の時間に、はまっ子防災ガイドのセットを使って授業が行われています。



市内の防災教育

旭中学校 地域防災訓練

災害時の被害を最小限に抑えるには、地域で行っている防災訓練に参加することが大切です。自治会・町内会などでは、地域の防災組織の訓練や地域防災拠点の避難所開設・運営訓練など、自主的な活動が行われています。写真は、横浜市旭区にある旭中学校で行われた地域防災訓練の様子です。旭中学校の生徒と、学区を同じくする中沢小学校の児童が参加し、地域のボランティアの方々と一緒にさまざまな訓練をしました。



蒔田中学校 防災プロジェクト

横浜市南区にある蒔田中学校では、中学生一人ひとりが地域防災の担い手になれるように、防災関係部署と連携した防災教育プログラムを実践しています。9月から、2年生の総合的な学習の時間など(合計12時間)を活用し、防災関係部署との関わりのおかげで、防災に関する知識や技術を習得してきました。



【学習や訓練のようす】()内は支援部署



地域の復興

なまじいのできるころ 釜石鶴住居復興スタジアム
震災による津波で流された小中学校の跡地に、復興のシンボルとして建設されたスタジアムです。2019年ラグビーワールドカップの会場のひとつでした。このスタジアムの存在は、釜石の人々が震災の悲しみを乗り越えるための希望となりました。



指導のポイント

地域防災訓練には積極的に参加するよう呼び掛ける。横浜市危機管理室からも、中学生の積極的な参加が望まれている。

地域の消防団の方や、消防の方から直近の防災情報を聞けるチャンスである。回覧板でお知らせが回ってくるので、家族や兄弟と参加するよう指導する。参加すると、炊き出しを食べたり、防災用品などをもらえる場合もある。

●地域の復興

2011年に発生した東日本大震災より復興(復活)する釜石を象徴したもの。本書でこれまでに学んだ災害が起こる前の備え、起こった後の対処に続いて、元に戻っていく希望も学んでほしい。被災地の現状を学び、どうしたら復興していけるのか、自分たちは何をしたらいいのかといったことを生徒自ら学び実践につなげていきたい。どのような復興を目指し、どのように復興計画を策定し、どのように復興を進めるのか事前の準備が重要である。